
妖魔

山田太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妖魔

【Nコード】

N65920

【作者名】

山田太郎

【あらすじ】

時は、現代

高度な文明により、人々は「幸福」という成果を手に入れた。

しかし…

その高度な文明が高まるにつれ、様々な負担が人々にかかっていく。

それはやがて、人々を苦しめる様になった。

そんな中…

突如、人間のスペックを遥かに越えた「存在」が現れ始める。

それを知る一部の人間達は、彼らをこう呼んだ

「妖魔」と…

上司と部下 1

上司「今回の事件は…やはり」

部下「はい。間違いなく「妖魔」が行ったものに間違いありません」

とある街で、殺人事件が起きた。

死因は、投石によるものだった。

だが、しかし…

上司「心臓部が、えぐられていたそうだな？」

部下「はい……………」

投石により…心臓部を突き抜けた事によって、被害者は死亡した。

人間技で、出来ることではない。

上司「事件があった日に…怪しい人物はいなかったのか？」

部下「何人か浮かび上がりました。ですが…」

上司「証拠は掴めなかった、か…」

上司と部下 2

部下「何しろ殺害方法が方法ですから…まあ無理矢理って方法もあります」

上司「それでは意味がない。困ったものだ…」

「妖魔」は存在が確認はされているが、未だに捕獲することは出来ないでいた。

その理由として…

「妖魔」は平常時は普通の人間と変わらないからだ。

上司「通常の方法で奴らを捕らえるのは不可能に近いな。となれば…」

部下「大滝博士、ですか？」

上司「うむ…」

大滝博士。

「妖魔」を追う科学者。

国会機密である「妖魔」という問題に対し、関わりのある人物だ。

上司と部下 3

部下「しかし…あの大滝博士ですら、「妖魔」を判定する手段を未だに発見出来ないみたいです…」

上司「今はそうかも知れん。だがあの人なら出来る筈だ。私はそう信じている」

そう。

頼みの綱は、大滝博士だけだ。

勿論、博士だけを宛にしているわけではない。しかし…

奴らは、なかなかしっぽを出さない。

せめて的を一人に絞れるくらい完全な証拠が有ればいいんだがな…

部下「では…私はこれで」

私の部下は、そう言い去っていった。

……………

妖魔、か…

奴らは一体、何者なのだろうか…？

上層部の人間達なら…もう少し何か知っているのだろうか？

私には…解らないことだらけだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6592o/>

妖魔

2010年11月6日13時34分発行